

MS科数学518班

津波による被害地域と避難場所の推定

班員：田中 寛人 小野 仁帝 後藤 圭太

指導者：早田 知樹先生 寺崎 泰弘先生

動機：

班員が通っていた中学校は海のすぐそばにあり、津波（最大18m）の避難所として使われていて本当に大丈夫なのかと疑問に感じたから。

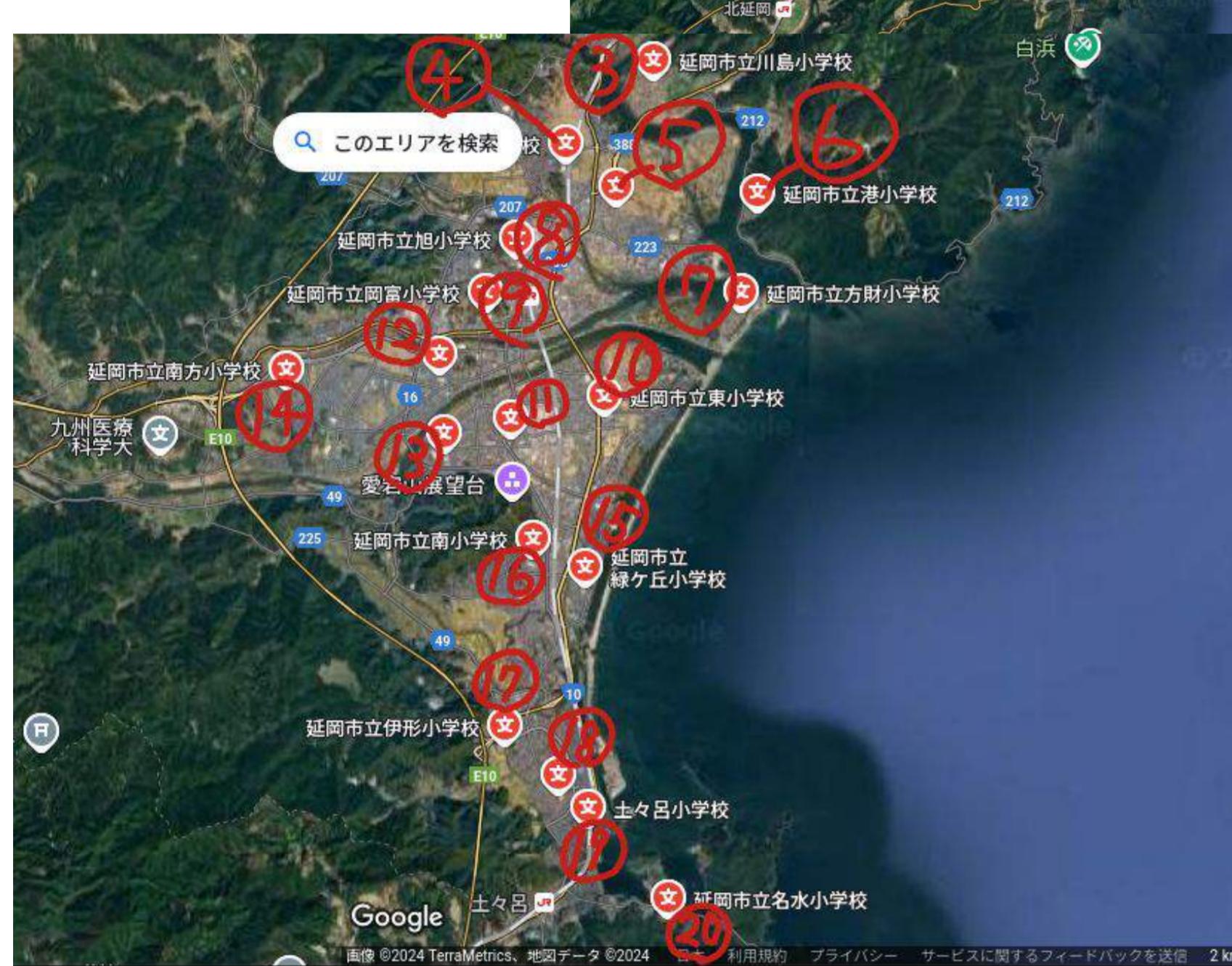
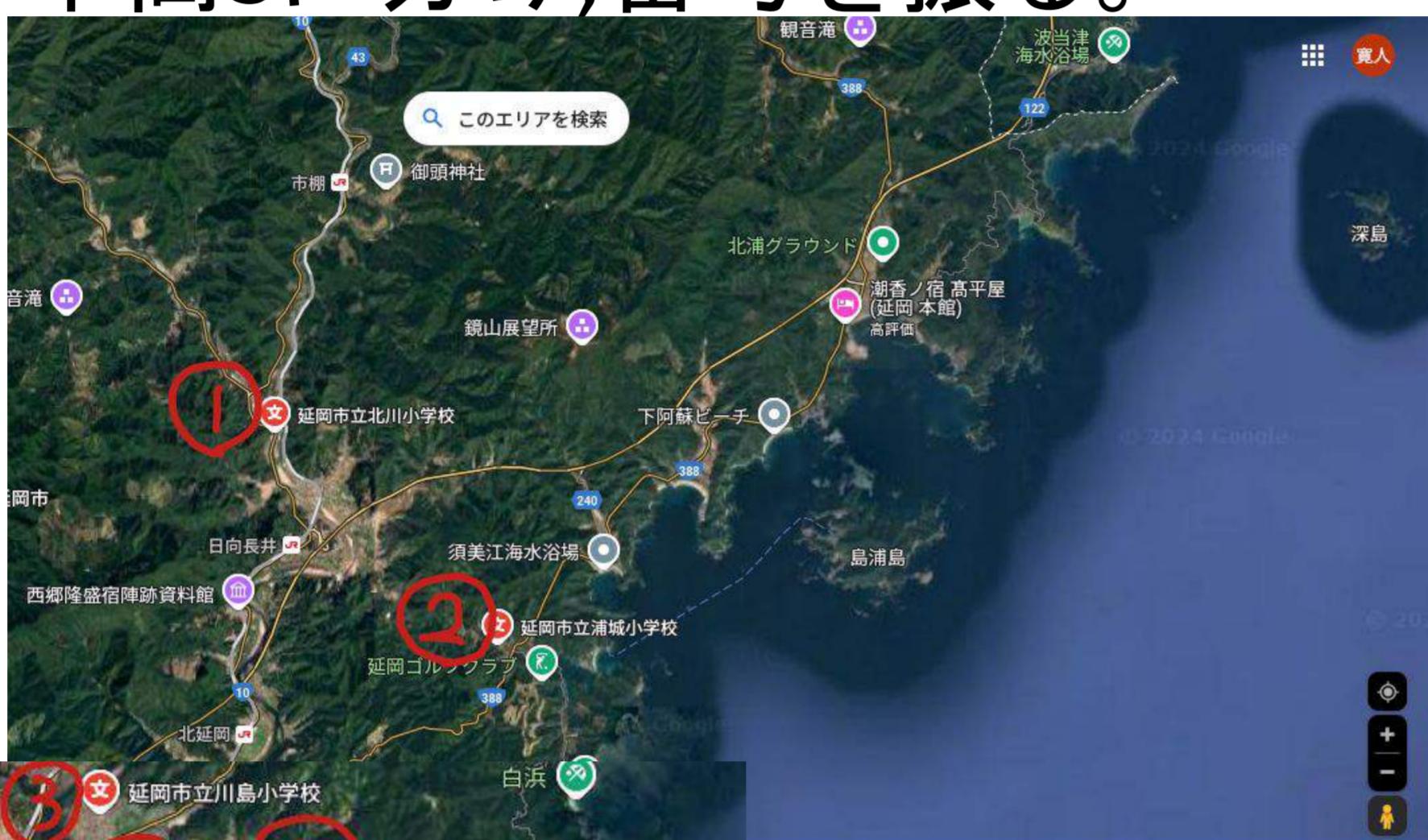


目的：

災害に対する意識を高めるため。

研究方法：①小中高3に分け、番号を振る。

グループA→
(小学校)



グループB→
(中学校)



グループC→
(高校)



②: Google Earthで津波の動きを見る。

③: 地震が発生してから津波が到達するまでは18分かかるので、その間に行ける範囲で被害地域と避難場所を考える。

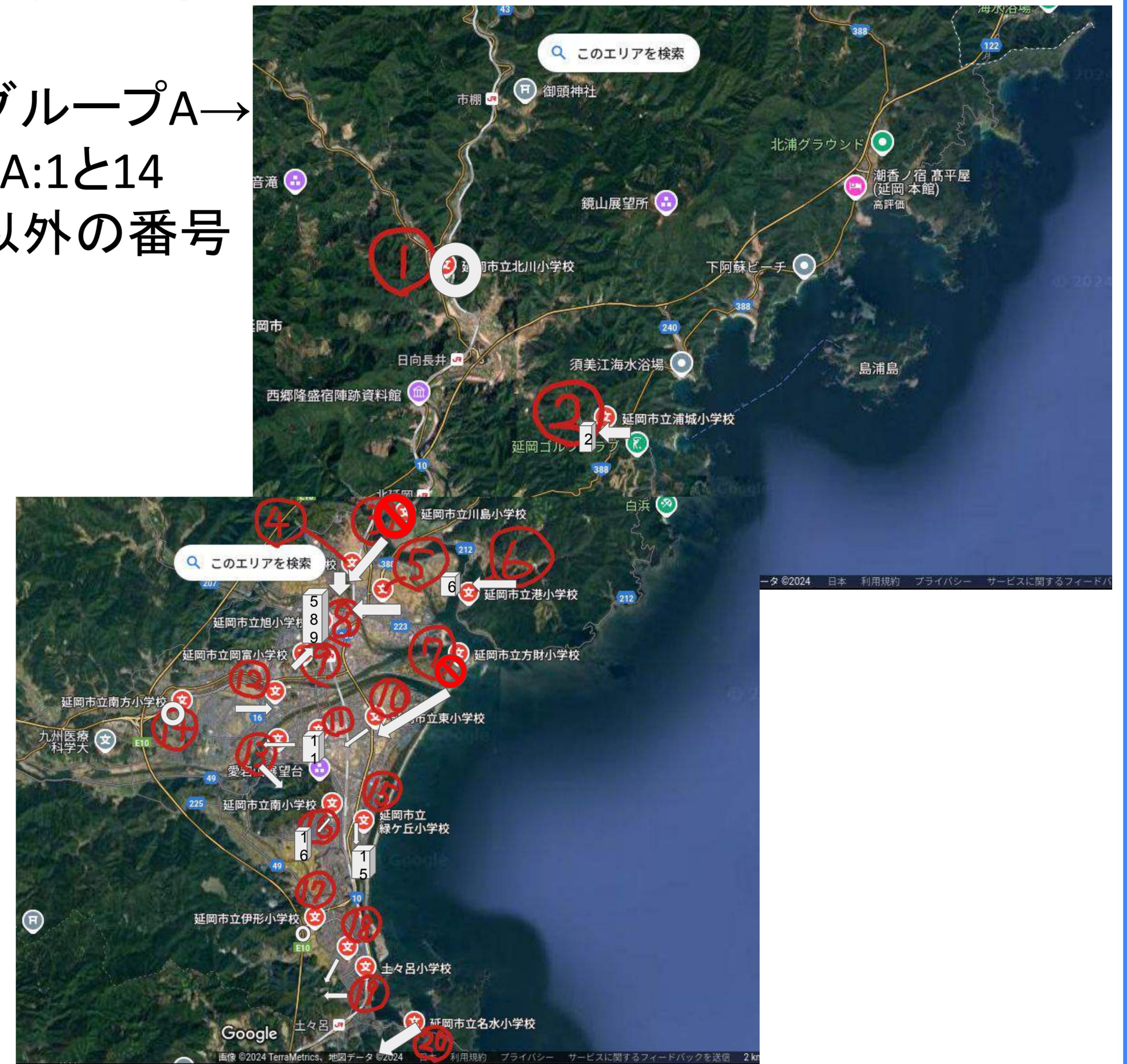
*避難する必要がない学校: 高い建物:

仮説：

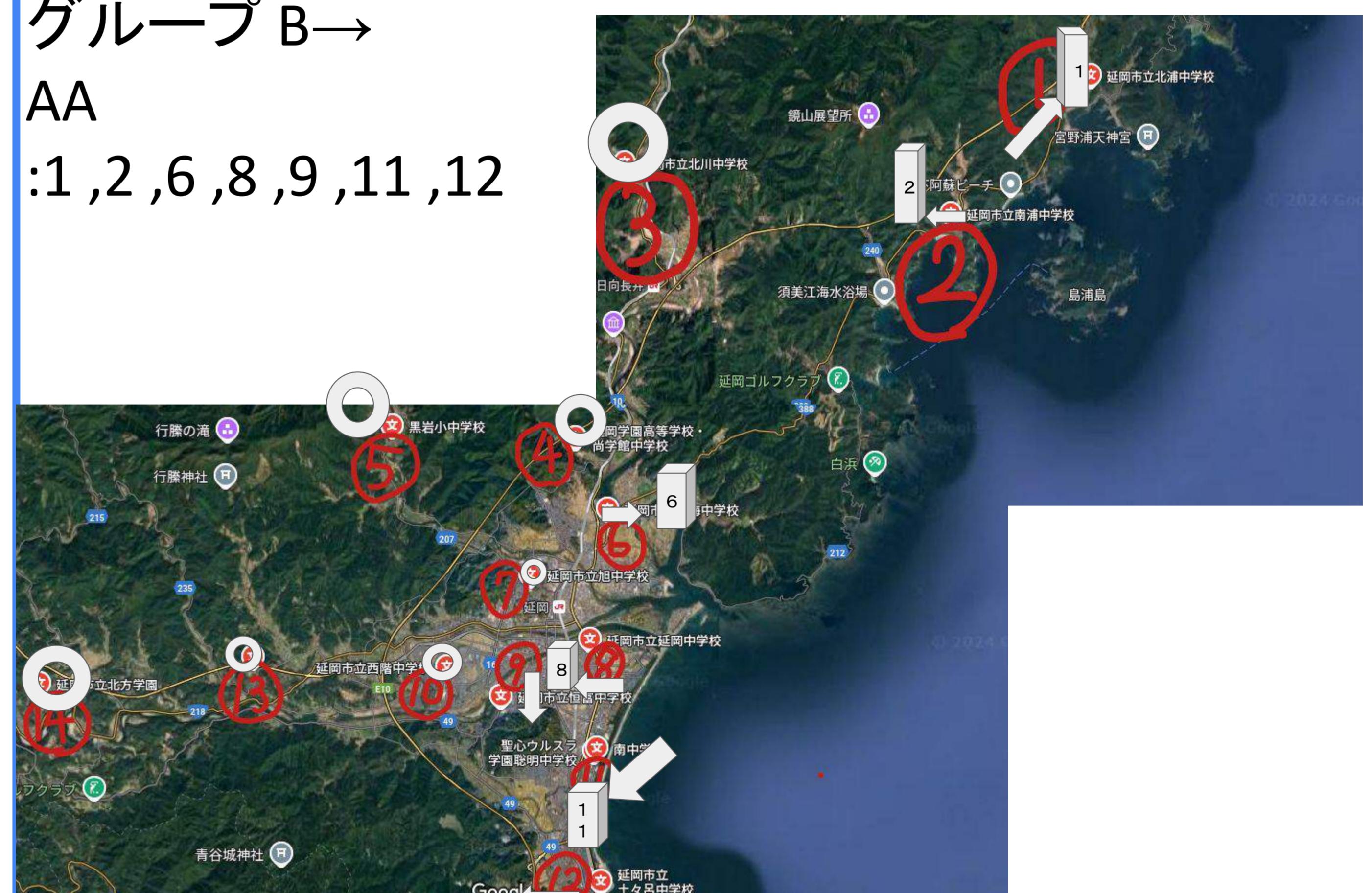
どの地区においても、標高の高い山が最も安全な避難場所となるのではないか。

研究結果と考察：*被害地域=AAとする

グループA→
AA: 1と14
以外の番号



グループB→
AA
: 1, 2, 6, 8, 9, 11, 12



グループC→

AA

: 2, 3, 4, 5



◎学校からの距離や津波の到達時間を考慮すると、必ずしも山がベストな選択とは限らない。

→僭越ながら、市の避難場所を考え直す必要があるのではないかと考える。

先行研究、参考文献：

宮崎県の地震・津波及び被害の想定について http://www.pref.miyazaki.lg.jp/documents/4579/4579_20200318114609-1.pdf